

イギリス-7-1

応接録 (*) : London Bridge Hospital

*メモに基づいて作成

2023年6月2日

Megan Field: Business Development Manager

Anny Lin: Head of Business Development

<要約>

- コロナの時は、NHS が民間病院の機能を買ってあげて、非コロナ診療を担わせた。
- NHS に勤務する多くの医師が、非常勤として民間病院でも診療している。
- 専門診療科のみではなく、プライマリ・ケアについても Walk-in GP という形で民間の医療機関が参入している。
- イギリスが民間のプロバイダーにとっての優良な市場となっている背景としては、NHS に対する国民及び医師の不満がある。
- イギリスでの民間病院は、救急医療を行う義務がない。
- 病院設置については、独占禁止法の規制を受ける。

ロンドンブリッジ病院 (LBH) は、場所柄的に、川の向こう側が世界有数の金融街となっている。また大手の金融街が集中する、Canary Wharf からもアクセスがいいということで、我々の患者の 8 割が金融機関に勤務しており、民間の医療保険を持っている。LBH は地元の NHS の GP ともいい関係を持っている。企業との間でも、GP から LBH の専門医療までの紹介がスムーズにできるような協力関係がある。

2020 年にコロナが始まった時には、NHS がすべての民間病院の機能を買った¹。すぐ近くに NHS の病院である Guy' s and St. Thomas 病院があり、こことも非常に緊密に連携している。医師の中でも、主として Guy' s and St. Thomas 病院に勤務しながら、週に 1、2 回

¹ 2020 年 3 月 21 日に、NHS イングランドが 200 の民間病院全部、8000 床分と 1200 個の人工呼吸器、700 人の医師、1 万人の看護師をコロナ、がん、緊急手術を来なうための機能として「買う buy」ことを発表した。しかし、この契約は当初の計画通りに進まず、3 月末の時点では、民間病院の 0.62% としか契約できていなかった。その後、イギリスでの流行が危機的状況となったこともあり、多少増えたが、民間病院の協力が不十分であったという指摘がなされている。

(<https://www.bmj.com/company/newsroom/the-nhs-paid-private-hospitals-2bn-in-the-pandemic-but-some-treated-more-private-patients-than-nhs-ones/#:~:text=In%20a%20%E2%80%9Cmajor%20deal%E2%80%9D%20announced,cancer%2C%20or%20needing%20urgent%20operations.>)

LBHでも夕方の診療を行う者もいる。そういう医師は、公的機関、民間機関の両方で仕事をしている。コロナが最も酷かった2020年には、心臓の緊急手術及びがんの治療について、NHSから医師がLBHに来て、LBHのスタッフを使って手術するということがあった。このGuy's and St. Thomas病院と我々のコロナ禍におけるアレンジメントは非常に良かった。NHSからLBHに移送された患者の中に、コロナ感染者はいなかった。また、コロナに感染していないことを確かめるスクリーニング検査もしていた。また、LBHではコロナの患者は診ていなかった。

コロナは診ていない。入院が必要な患者はNHSで受けた。LBHではコロナ以外の心疾患等の手術を行った。LBHはコロナフリーの環境を維持した。NHSの病院は、コロナ患者の病棟とそれ以外の病棟のゾーニングを行わなければならなかったが、LBHでは、コロナフリーなのでそれをする必要がなかった。今でもなお、多少はNHSからの症例を受け入れている。ポストコロナになってもNHSのキャパシティが追い付いておらず手術がさばけないからだ。NHSからこちらに送られてくる件数は減ったが、今でも週に2、3件はある。

病院の診療科としては、心臓、呼吸器、整形外科、筋骨格系、腫瘍内科、一般外科等がある。病床は200床だ。専門外来もあり、診察室は、キャンパスが分かれているが、全部合わせて120室ある。医師は全部で900人おり、そのうちの500人は麻酔科医、放射線科医だ。

ウォークインGPというのもあり(図)、患者がウォークインGPに登録²していれば、何かあった時にはすぐに受診することができる。未登録でも受診できるが、予約が必要になる。ただし、メンバーシップ制ではない。民間保険の契約ポリシーにもよるが、企業の経営陣であれば配慮はする。ただ基本的には、お金さえあれば自由に受診できる。ロンドンで15のWalk-in GPを経営しているのだが、その全体で50人から60人ぐらいのGPがいる。

² この「ウォークインGP」は、NHSの公的なGPとは別の制度。



図 London Bridge Hospital の傍近くの Walk-in GP Centre の外観

NHS の医師が非常勤で勤務することが多く、割合としては、週の3日、4日程度が NHS で、1日、2日をこちらで、という医師が多い。ここでいう非常勤というのは契約上の話だ。通常は医師になって、NHS の常勤として勤務し始める。そして、キャリアを積んで、経験を生かして収入を増やしたいという医師は、NHS で3、4日勤務する以外にこちらでも診療する。

NHS から来ている腕のいい外科医で年間100万ポンド以上稼ぐ医師が20人ぐらいいる。若手医師でもこちらで働く医師は、5万ポンドから10万ポンドが年収ではないか。最近の傾向としては、さらに経験のある医師が、NHS に不満を持っていて、さらに収入を増やしたいと考えて、NHS よりも民間病院での勤務時間を増やしたり、NHS を辞めて民間病院だけで勤務するというケースも増えてきた。実際の報酬としては、外来患者で1人当たり20分診療して、300ポンド程度となる。1時間なら1000ポンドとなる。これは専門医の指導医の単科であり、GP 的なプライマリ・ケアの場合は20分で80ポンドが相場だ。単価はまず医師が提案して、それでいいかどうかは医師と保険会社が交渉して決める。病院として医師を雇用するわけではなく、病院は場所を提供する。したがって、医師が個人で開業するような形になる。

外来診察室が120室あるので、検査や小外科を含めて1日で1200人ほどの患者の診療を行う。特にシャードという高層階のビルが隣にあるが、そこに120のうち100室あるが、ここでは1日に900人の患者の診察を行う。

民間病院のシェアは現在10%程度だが、その全部を我々HCAが担っている訳ではない。他の民間病院、例えば、BMI Circle、BUPA Cromwellがある。ロンドンの民間病院の中だけなら、HCAのマーケットシェアはおおよそ50%だろう。HCAとして新しい病院も作っているが、

これはロンドンではなく中部のバーミンガムだ³。いずれにしても、民間の市場シェアは伸びている。

病院の新規設置には様々な規制がある。開業してからも国の Care Quality Commission の監査も受ける。先週こちらにも入ったところだ。これは、民間、公立、いずれであってもある。これに加えて、イギリスにおける独占禁止法を所掌する規制当局がある。HCA はロンドンでは民間の中では 50% のシェアを持っているので、ロンドンにおいてはこれ以上作れない。したがって、HCA としてはロンドンではなくバーミンガムやマンチェスターといった他の都市に展開している。ちなみに Walk-in GP の診療所は独禁法の規制を受けない。

親会社である HCA はアメリカの上場企業だ。HCA がアメリカ外で病院を持っているのは、イギリスだけだ。と言うのはイギリスは NHS という特有の医療制度だからだ。20 年前まではスイスにも我々は病院を持っていたが、採算性が悪かったので合理化した。イギリスには、中東から富裕層の顧客患者が医療を受けに来る。そこで、中東に病院を建てたらいいのではないかとよく言われる。しかし、中東では規制があり運営は可能だが、病院を保有することはできない。したがって、進出していない。

イギリスは NHS の独占の下で医療給付が抑制されていて待機時間も長く不満が大きい。そして医師の給料も安く、医師の不満も大きい。つまり NHS の問題点が、民間病院にとっては強みになっている。よく言えば補完関係だ。しかし、それだけではない。アメリカではすべての病院が救急対応をしなければならないことになっているし、そのような体制を維持するためには高額のコストがかかる。そのため、他の診療でその分も補填する必要があるので全体の医療費が上がってしまっている。イギリスではそのようなことをする必要はない。LBH では救急対応をする必要はない。

HCA が新しく始めたサービスで患者に提案しているものがある。例えば、交通事故があったときなどに搬送されるのは、必ず NHS の A&E⁴ になるが、一旦状態が安定化した後に移送が可能であれば HCA の病院に転院することが可能となる。そのため、NHS の問題点に依存している訳ではない。と言うのも NHS にしかできない医療もある。心筋梗塞、脳梗塞、重症外傷でまず搬送されるのは、依然として NHS だ。

コロナの時に、近隣の Guy's and St. Thomas 病院から医師が来て、ここのスタッフと場所・設備を使って手術をしたが、これについては NHS Trust が LBH に報酬を支払った。こ

³ <https://hccareers.co.uk/locations/the-harborne-hospital/>

⁴ Accident & Emergency

これはコロナ対応ということで一時的な契約だった。その価格設定は交渉によった。コロナ以前でも、NHS がひっ迫した時に、そのような民間病院に患者を NHS の病院から回して治療することもあった。ただし、HCA は、上場企業であり、業績目標を抱えており、他の民間病院と比べても料金設定が高い。そのため、NHS から HCA にお願いされることはあまりなかった。それをやるのは、よほどリスクが高いときだ。

コロナの院内感染については、2020 年は全く発生せず、完全にコロナ・フリーだった。その時は、皆が週に何回も検査をしていた。2021 年以降はコロナ感染が普通になった。職員の中から感染者が出たり、患者も、入院時に陰性を確認してはいるが、入院後に陽転化するようなこともあった。その場合も、そのまま LBH で治療を継続した。2021 年以降はワクチンもできていたし、ウイルス自体も変わった。また、コロナに対する知見も揃って、どうすればいいかと言うことが分かるようになったからだ。